



発表会
参加する多くの学生による
海洋生物科学科のポスター発表

受け入れ期間
2023年2月14日（土）～20日（木）の7日間、事前研修として1月23日にはオンラインで研修生ならびに引率教員との打ち合わせを実施しました。事後研修として、3月10日にはオンラインで今回の

タイから招へい
魚介類の健康管理
画像解析技術を学ぶ
福山大学は2014年から2018年までほぼ毎年中国やベトナムから「さくらサイエンスプログラム（SSP）」により研修生を招へいしてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大による招へい延期を経て、2023年2月に福山大学生命工学部海洋生物科学科はタイ王国から2大学11名の学生と2名の教員、合計13名をSSPにより招へいしました。招へい延期の期間中も2021年度で、これらの大学とオンラインによる学術交流会を続けてきました。4年ぶりの再開です。今回は待ちに待った対面による交流を実施しましたので、その概要を報告します。

海洋生物科学科はタイ南部の国立大学であるプリンスオブソクラ大学（PSU）から学生9名と教員1名、ラジャモンコン工科大学スリビジャヤ校（RUTS）から学生2名と教員1名を招へいしました。両大学ともに海洋生物や獣医関係の学科から選抜された優秀な学生です。



伊丹 利明
（福山大学
生命工学部
海洋生物科学科教授）

福山大学の活動報告

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

Ⅱ 特別連載 Ⅱ

第353回

プログラムスケジュール	
1日目	福岡国際空港到着 地下鉄とJRで福山まで移動 研修ガイダンス
2日目	学長表敬、開講式 危機管理のための日本語学習 講義「日本における養殖魚介類の疾病」
3日目	福山大学内海生物資源研究所 マリンバイオセンター水族館の視察 学生との学術交流会 「魚介類の画像解析技術による 健康管理技術」の講義と実習
4日目	「魚介類の画像解析技術による 健康管理技術」に関する特別講義 ポスターセッションによる学術交流会
5日目	特別講義と成果発表会のまとめ
6日目	広島平和記念資料館での平和学習と宮島訪問
7日目	福岡国際空港発、帰国

研修の反省と今後の共同研究ならびに交換留学やダブルディグリープログラムの枠組み等について協議しました。今回の招へいでは、研修生がその専門分野を通して日本語の具体的なイメージを描けることを目的としました。以下、日程に沿って実施内容と招へい者の様子を報告します。

研修生は2月14日にバンコクから夜行便で福岡空港に到着して、地下鉄と新幹線で広島県福山市まで移動。研修生がコンピュータの入ったバッグを空港ロビーに忘れるというハプニングありましたが、2時間後には無事回収することができました。怪我の功名で、安全・安心な日本を実感してもらおうとできました。ホテルに到着後、簡単なガイダンスを実施して、翌日からのタイトなスケジュールに備えました。

● 2日目（2月15日）

研修生はホテルから大学へJRと最寄りの駅からのスクールバスを使って登校しました。彼らが登校途中で驚いたことは、小学生の集団登校と小・中学生が一人でJRに乗って通学していることではないので、タイでは子供が一人で通学することは少ないです、日本では子供が一人で通学するのを再度実感したそうです。

大学では学長・学部長表敬訪問ならびにPSUと福山大学との大学間学術・学生交流協定の締結式を行いました。福山大学学長とPSU教員から、「より一層の交流の活性化を期待する」旨の発言がありました。午後から

は研修生は簡単な日本語講座と日本における養殖魚介類の疾病について講義を受けました。

● 3日目 (2月16日)

福山大学の内海生物資源研究所およびマリオンバイオセンター水族館(因島キャンパス)を訪問しました。有瀬センター長(当時)と関係教員による研究紹介ならびに日本人学生の説明により所内を見学。日本人学生は慣れない英語にとまどいながらもITを駆使して自分の飼育・研究している魚について懸命に説明をしていました。

これに加えて、研修生らが研究成果をポスターセッションで発表しました。日本人学生も積極的に質問するなど、先の所内見学と合わせて、学生同士による活発な学術交流が行われました。午後からは「魚介類の画像解析技術による健康管理技術」の講義と実習を行いました。

● 4日目 (2月17日)

福山大学キャンパスにおいて、宮崎大学工学部のティティズイン教授による「画像解析によるエビ類の疾病の早期発見技術の開発」とご自身の経験から感じた日本留学の意義や具体的な方法と課題について講義を受けまし



広島平和記念資料館にて

た。午後からは、内海生物資源研究所と同様にポスターセッションを開催しました。このポスターセッションでは、日本人学生とタイの研修生が共同で作成した観光資源と水産系食文化に関するポスターが大変印象的で好評を博しました。学内の多くの学生と先生方を中心に活発に交流を図っていました。その後、修了証書の授与式を行いました。

● 5日目 (2月18日)

午前中はティティズイン教授による講義のまとめと、午後は講義と資料の整理を行いました。

● 6日目 (2月19日)

平和学習と世界遺産学習のために、広島平和記念資料館と厳島神社を訪問して、福岡市へ移動。翌日に、福岡国際空港からバンコクへと全員無事に帰国の途につきました。

今後の展望と学生の変化

今回の対面型のSSPは、2021年度に開催したオンラインでのSSPの発展型で、さらに事前のオンライン研修を実施したので、研修生と日本人学生の研究と交流に対する意識が驚くほど高く、教育効果の面で大変有意義な研修でした。研修生からの報告書によると、前述したように「日本は安全・安心で安定した社会であるのを実感した」、さらに、「充実した研究施設・設備を使って研究したいので、是非日本への再渡航を目指したい」という意見が多くみられました。

タイの大学院生と教員の発案により、今年8月にPSUにおいてSSPの同窓会の開催とこれを記念した学術交流会の開催を計画しています。この交流会には2021年のオンラインSSPで参加したインドのペロール工科大学(VIT)の研究者と学生が参加する予定です。この交流会をより発展させるためにも、次回のSSPでは日本、タイおよびインドの魚介類養殖と疾病防除対策について研究交流を予定しています。これら3カ国が直面している水産養殖業の課題について取り組み、国際的な視野を持つ次世代ネットワークの構築を目指します。

積極的に受入れ業務を手伝い、同時に学術交流を行った日本人学生からは、是非タイへ海外研修に行きたいとの要望が出されています。8月開催予定の学術集会の折に最終調整を行い、学生の海外研修を実現して、留学生や研究者としての国際ネットワークを構築したいと考えています。

最後に、今回のさくらサイエンス招へいプログラム実施のために、多大なご支援とご協力をいただいた科学技術振興機構と担当者の方々に心から感謝申し上げます。